

## ○9番（山口良広君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可を得ました9番山口良広です。きょうも最後になりました。私なりに一生懸命頑張りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

今回、私が一般質問をするに当たり問題にしたかったのは、11月末、政府がデフレの兆候があると発表すると、すぐさま牛丼チェーン店が2割引セールをしたことです。その牛丼チェーン店がなぜ安くできたのか不思議でたまらなかったのです。デフレだから米が安く生産できたのか、デフレだから牛肉が安く生産できたのか、デフレだからネギが安く生産できたのか、それとも人件費が安く抑えられたのか、それと同時に、大型量販グループより86円の円高になると輸入農産物を中心にした円高還元セールをやるという始末、なぜ食料品を軽く見るのかと言いたい。その先には生産する農業者がいるんですよ。

それと同時に、1年もたつでしょうか。中国の異物混入ギョーザ事件、アメリカ産牛肉の骨髄部位の混入から始まったアメリカ産牛肉の輸入禁止、工業用原料米の食糧米への流用事件と、いろんな食料品の偽証問題が発生したものです。安い価格には何か問題があるから、少々高くても安心・安全な国産農産物を利用しようと言っていた消費者の声はどうなったのかと思うのは私だけでしょうか。

民主党を中心とした政権与党での事業仕分け作業部会の答申では、農林漁業関係はほとんどの事業がゼロまたは見直しと答申されてきました。マニフェストでは40%の自給率を50%に上げようとしております。我々農業者はどがんせろということでしょうか。ただ、働いて働いて、食料生産に励め、生活は農家への戸別所得補償で守るからというつもりなのか。私は農政に憤りを感じます。せめて武雄市内の農業だけでも、10年後、20年後の武雄市農業のビジョンを描き、今すぐできるものは今、将来、あのとき樋渡市長はいい決断をして行動したから武雄市の農業は安定していると言われるような農業政策をしてほしいのです。それと同時に、食の大事さ、農業の大事さを食育の観点から、その点も取り上げてみたいと思うのです。

そこで市長にお尋ねします。今の農業と食品業界の動きをどう見ておられるか、お尋ねしたいと思います。

## ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

これは答弁すると10日ぐらいかかりますので、ちょっとかいつまんで申し上げますと、恐らく農業と食品業界というセットでお話をされましたけれども、ちょっと分けて申し上げますと、農業にとっては今まさに冬の時代だと思っています。それはとりもなおさず、デフレあるいはデフレに伴う消費量の減、そしてまた円高に触れる分は輸入品は安くなるといったことからすると、ますます円高デフレ基調というのが日本の農業にはパンチを与えてくると

いうふうに思っております。しかし、やはり私どもが思わなきゃいけないのは、JAのある方がおっしゃっておりますけれども、ピンチのときに次の種をまこうと。冬の時代だからこそ、次に何をやろうという種をまこうということからすると、今、日本の農業、農政自体が非常に委縮している中で、私たちは次のことを果敢に考える必要があるだろうと。

1つは、武雄農政に限って申し上げますと、おかげさまでレモングラスを媒体としてさまざまな販路が今できつつあります。武雄がいろんなところに、私もトップセールスで行くと、レモングラスのほかに何があるねというのは必ず言われます。ですので、私たちは第2の京野菜を目指す必要があるというふうに思っています。それは畜産もそうですし、さまざまな果物もそうかもしれません。ですので、1つの点が次には面になるというような政策を打っていく必要があるだろう。このセットとして流通食品の工業があると思いますので、まず川上の農政をやっぱり我々はきちんと温かい気持ちを持ってやっていくと。それが必ず川中、川下につながっていくというふうに思っております。

終わりにしますけれども、ひとつぜひこれはお考えいただきたいのは、やはり今までの日本の農業でうまくいっているところは、この議会でも申し上げましたけれども、やはり川上から川下まできちんと流通もそうだし、例えば熊本県で肉牛をつくっておられる農家が、それは市場には非常に今安くなっていると。物すごく安い。そうなってくると、市場に出すとかえってマイナスになるので、例えば自分のグループでレストランを経営していると。そこに優先的に出して行って、またここの市場価格が上がると、そっちに出していくということをされています。そうなってくると、よそで買ってレストランをやるよりは、自分たち、あるいは自分たちの仲間で行うと。

これを1掛け2掛け3——私は1足す2足す3とと思っていましたけど、1掛け2掛け3で6次産業というそうですので、それが非常にうまくいっているということでもありますので、そこまでできていなくても農業生産者の方々は、今JAが非常に意識が高くて、消費地、例えば東京でいうと伊勢丹であるとか、NHKの代々木の広場であるとか、生産者も一緒に連れていってくれるんですね。あるいは一緒に行っている。ですので、消費者が何を求めているか、あるいは自分たちが最後までやることによって、きちんと適正な利潤を得るという構図が求められているんじゃないかなというふうに思っておりますので、そういう仕掛け、仕組みづくりということを考えていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私も今の市長の言葉ではありませんけど、生産だけの農業から販売までつながるような体系というものをぜひ武雄の農業振興としてつくってもらいたいということを訴えたいと思います。

その前に、お米の消費とライスセンター及びカントリーについてお聞きしたいと思っています。

お米の消費量は、50年前の昭和37年代ごろには年間118キログラムも食べられていました。それが現在、平成18年には61キログラムと半分に減ったのです。その間、農業地域では圃場整備がなされ、30アールのすばらしい田んぼができました。その中に、構造改善事業ということでライスセンターを中心とした米の共同調整作業ができたのです。その中にライスセンターというものが昭和48年ごろから始まり50年代前半にかけて、武雄市内には旧山内、北方まで含めると10カ所のライスセンターができました。この流れというものは県内も一緒です。県内にも圃場整備の後の共乾施設ということでライスセンターができました。その数は県内に、皆様に配りました表にありますように160カ所ほどできたのです。そして、それと同時に、その後、このライスセンターではその当時、もみを持ち込み、それをもみすりしながら玄米にして貯蔵するというのがライスセンターです。それと同時に、カントリーということでもみ貯蔵の方式が始まりました。そういう中で農業振興が進み、現在の米麦の生産調整がなっているわけです。

このようにして米の貯蔵が始まったわけですけど、そんな中でどうしてもライスセンターの施設が古くなりまして、これでいいのかなというふうなことを考えるわけです。現在の農政を考えますと、なかなか難しい事情でありますけど、米、麦、大豆はいろいろ農業政策が変わっていくと思いますが、国の農業政策としてある程度保護されていくのも米、麦、大豆です。

ここからが問題です。今の時期、施設の更新は苦しいかもわかりません。でも、各施設でオペレーターを確保し、熟練技術者を短期間雇用し、確保していくのか。それができるのか。米も競争販売の時代になるとき、品質低下が予想される玄米貯蔵と、消費者が食するときに玄米にする品質本位のカントリーの貯蔵がいいのか、いろいろ検討し、私はぜひこのカントリーというものを大事にして改造する時期が来ているんじゃないかと思うわけですけど、その点、いかがなものでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

お尋ねのカントリーエレベーターの件でございますけれども、お手元にありますように、県内の中でまだ普及が十分でないと思います。それで、今ライスセンターが市内に10カ所ございます。これについては、もうほとんどが利用組合で運営をされておまして、よその事例を見ますと、カントリーエレベーターの設置の経費については貯蔵の量によっても違いますが、相当経費もかかるということで、利用組合の負担もかなりあると思います。

そういうことで、今現在はライスセンターの耐用年数が35年ほどありますので、今から更

新の時期に入ってくるということで、これについてはJAなり、あるいは利用組合等のほうから相談等があれば、これについては市としても協議に応じてやっていきたいということでございます。今現在はそういう状況でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

9番山口良広議員

**○9番（山口良広君）〔登壇〕**

確かに今現在は米も安いし、今の農業新聞等を見ますと、麦の減反政策じゃありませんけど、補助事業も安くなるというふうな要素もあるわけです。そんな中で農家の意見をまとめていくというものは大変なことかと思えますけど、ぜひどこかの時期では、共同施設というものは大事な米づくりの財産だと思います。これもぜひ検討——農協団体が運営主体となりますので、その意向が大事かと思えますけど、そんな中で将来、あのときに検討して運動をして、5年後、10年後になるかわかりませんが、米麦農業イコール佐賀の農業だと思っております。そんなことを考えて、どこかの何かのときにでも話し合いの場が持たれて、一緒に検討していくのが武雄の農業を守ることじゃないかなと思っております。

次に、この議会でも大きく取り上げられていますレモングラスのことです。完全無農薬のオーガニック栽培を目玉として育てたレモングラスです。レモングラス栽培も行政や各大学、企業の試験、開発により、いろんな商品が開発されてまいりました。とりわけ、今度レモングラスの緑茶ブレンドのティーパック、紅茶のティーパックとして商品開発されたものは、今後のレモングラスの販売を考えた場合、大きな要素だと思います。それは、先の物産まつりでも証明されましたように、お客様の評価は大変大きいのです。これをてこにして、いろんなところで販売し、武雄市の特産となり、今中山間地の中で耕作放棄地の解消につながるんじゃないかと思うのが、このレモングラスだと思っております。完全無農薬、オーガニックといいますと、3年以上耕作がされていない農地であれば、いいものができるのです。ぜひ、そういう形で今後も取り組んでもらいたいと思います。

それと同時に、今いろんな販売ルートができております。どういうふうな販売ができていくかお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

先ほどの江原議員に経費の関係については答弁しましたけれども、レモングラスにつきましては、商品の開発、販売、これにかかわる雇用が今30名から40名ほどいらっしゃいます。生産、それから加工にかかわる雇用が年間で30名から40名の雇用効果があるということでございまして、それともう1つは、相当の宣伝効果もあるということで（発言する者あり）

それでは、お尋ねの販路でございますが、今現在やっているのは、市長のほうからあって

おります東京の伊勢丹新宿店ですね。それから、東京の一流のスーパー、それから大阪でもスーパー芦屋店、それからグリーンコープ、それから名古屋のほうでもお茶のメーカーとの協議も今やっております。それから、福岡におきましては、今現在、先ほどありました新商品を福岡の大丸あるいは井筒屋、そこら辺に販売をしております。それから、あとはインターネット関係、それから地元の物産館等で今販売をやっているという状況でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これに加えて、これはレモングラスの特色だと思いますけれども、大学、あるいは研究機関から引きが強うございます。北のほうから言うと東京大学、大阪大学、京都大学、九州大学、熊本大学、九州歯科大学、さまざまところでこれを今度は産学連携で製品として出していきたい。あるいはレモングラスの効用について調べたいということで、事務方はまだ言うな言うなと私に言いますので言いませんが、来年の2月ぐらいには驚くべき効果が大学から出されると思いますので、ぜひまた市民の皆さんたちも楽しみにしていただければありがたいと、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

9番山口良広議員

**○9番（山口良広君）〔登壇〕**

私もこのレモングラスにかかわったわけですけど、議会で市長からレモングラスの話を聞いたときに、最初に本当に思ったのが、このレモングラスで農業振興が本当にでくっとうかということのを思ったのです。それより、武雄市にはキュウリもチンゲンサイもイチゴも豚も牛も何でもあるよて、こいば一生懸命売ることが大事じゃなかろうかということのを市長と話したんです。そしたら、市長は言いました。あなたのところのキュウリは天皇賞までもらったもんねて。しかし、これを東京の伊勢丹で売ってくれと幾ら言っても売ってくるいやて。そいよいか、オンリーワンである武雄に、日本に一つしかないレモングラスの産地をつくって、それを新宿伊勢丹で売ったら、今先ほどの話じゃありませんけど、ほかにはなかなか言われたときに、キュウリであり、今がしゅんのイチゴ、牛肉であり、豚肉を売りや行こうさて、それが一番遠回りのごたつとが早かばいて。そいがために一緒にやろうさと言われたのが、このレモングラスです。

私はその声になるほどなあと。私もいろんな形で販売に一生懸命やってきました。100円売りをしてみたり、いろんな直売場で売ってみたり、店頭での販売に行ったりと。しかし、そのときだけで、あとの継続性ありません。そう考えたときに、今の市長のレモングラスという日本に1つしかないオンリーワンの商品からほかの農産物を売ろうという考えに感動したのです。ぜひ、この道を突き進めてもらいたいと思います。

そこで、きょうは、今キュウリ部会がしていますエコキュウリを持ってまいりました。

(パネルを示す) 先ほどの話じゃありませんけど、今これが佐賀みどり部会のキュウリです。エコ、すなわち地球に優しいキュウリを我々は生産しているんですということです。これがエコヒーターとしてエアコンの大きいものです。この電気で作った熱量を風で送り、それで部屋を循環させて湿度を減らしながらエコ栽培をするという方法です。こういうふうな販売というものは農協を中心にして、今のしゅんであるイチゴ、チンゲンサイ、牛、豚、いろんなものがいろんな方法で販売されております。

今、日本の園芸産物として一番強いものは何かといいますと、宮崎県のマンゴーです。東国原知事がマンゴーはうまか、地鶏はうまかとトップセールスをやって、今一番どこでも宮崎県を中心にして、太良町でもいろんなところでマンゴーがつくられるようになって、果実の王様となっております。その点、この力量というものは武雄市長にもあると思います。今からは、ぜひJAと一緒にトップセールスとして、いろんな武雄の農産物をレモングラスが作った販売網に乗せてやってもらいたいと思います。その点、いかがなものでしょうか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かにそのとおりだと思います。東国原知事に比べられると、ちょっと僕もどきどきしますけれども、実はちょうど2年ちょっと前に古川康知事とJAの幹部の皆さんと私と唐津市長とで台北の太平洋そごうに、その当時、J-PON、ミカンのトップセールスに参りました。そのとき、非常に知事には気の毒なんですけど、全く売れませんでした。売れた売れたて言いよんさったばってん、実は余り売れとらんわけですね。それはよくある話ですけれども、売れとらん。

それで、ああ、やっぱりだめかなと思えば、そういう思いで、久しぶりに11月の頭に台北にまた参りました。同じところですよ。そしたら、もう自分の目の前で信じられないことが起きていました。日本のリンゴ、ナシ、いろいろ果物を置いたわけですね。一番売れよったとは、佐賀のミカンです。本当に3個入って、日本円で換算して1,000円です。なしこれを買うですかと聞いたですもんね。そいぎ、甘いと。それと皮が薄いのでむきやすいということと、それとびっくりしたのは、知事が来たことを覚えとんさっわけですね。消費者の何人かが、あのとき知事が、トップが来たですもんね。トップセールスというのはこういうことかと、そのときに思いました。

そして、私がJAの皆さん、そして古川知事に見習わなきゃいけないのは、その当時、知事は確かに売り子さんもしよんさったですけど、すぐバイヤーの人たちに、ばーって話に行きんさったもんね。ですので、2年もと言われるかもしれませんが、2年たって、やっぱ

りミカンの実が成熟するように、台北でも佐賀ミカン、もう J-PON は今使えませんので、佐賀ミカンというのがかなり浸透しています。私はそういう姿勢を見習いたいというふうに思っています。JA の皆さんとともに、これは県の流通課も絡みますけれども、国外においてトップセールスの重要性、そして、もう最後にしますけど、知事のあごたんがよかった。日本で一番、世界で一番の佐賀ミカンです、J-PON です、ですので J をつけましたと。大丈夫かなと思って聞いておりましたが、本当にそれが実現になったということで、これこそ首長力だと思いましたので、ぜひそういった意味で農業生産者の皆さんたちは、私を、あるいは古川知事を活用していただく。それですべてとは思いませんけど、それが農業振興につながっていくというふうに私は理解をしております。

**○議長（杉原豊喜君）**

9 番山口良広議員

**○9 番（山口良広君）〔登壇〕**

ぜひよろしくをお願いします。それと同時に、私は販売網をどうか武雄の農産物や特産物を一緒にしたような形で、オール武雄の農産物を含む物産販売の組織化というものが大事かと思うわけです。そして、いろんなものが武雄の特産物としていろんなところに流通ができれば、武雄市は今、元気なまち、元気な武雄、そしておいしいものが、いいものがあるなど言われるような武雄市になってもらいたいのです。

そこで質問です。武雄市内の特産物の販売促進を進める販売促進の課というものをつくって、どがんないとして売りまくるばいというふうな組織というものをつくることはできないかなということをお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

今現在、武雄の特産品、特に農産物、それからお菓子とか、いろんなものがありますけれども、今現在の営業部の中で、観光課、レモングラス課、いのしし課、それから農林商工課ありますが、今現在東京とか大阪とか福岡、いろんなところに売りに行っております。そういうことで、そこら辺は何かもう少しまくできて、売り上げの向上、あるいは新たな特産品の開発とか、市内にはもっとほかにあると思いますので、そこら辺が何かもう少しできないかということで、部内の中では検討を今やっております。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

武雄には、佐賀のがばいばあちゃんとレモングラスだけではありません。さまざまな特産品があります。それを踏まえて、先ほど部長から答弁がありましたように、ちょっと組織機

構を来年の春にもう少し見直したいというふうに思っております。そういった意味で、仮称になりますけれども、営業部の中に特産品課をつくりたい。これはレモングラス課を今度廃止いたしますので、そういう意味で特産品課に集約をする。そこに今まで御指摘のありました畜産品でありますとか、エコキュウリでありますとか、イチゴでありますとか、そういったことに磨きをかけてブランド力を増して、そこから発信をするということで、少なくとも市政、行政から見たときに、レモングラス課が第1段階だったとすると、次のホップ・ステップのステップの段階に来たと。非常に恵まれた段階に来ていると思っておりますので、そういった意味で、特にこれは農業生産者の方々と思っておりますけれども、一生懸命下支えをして、バックアップをしたいと、このように考えております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

間もなく5時になりますが、本日の会議時間は議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。

9番山口良広議員

#### ○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、農業振興イコール農業所得の増大だと思います。所得の増大は販売のほかにありません。それを大事にして農業振興をしてもらいたいと思います。

そしてもう1つ、農産物販売ということで、ちっちゃな取り組みですけど、今、朝日の公民館では高齢農業者の元気づくりということで無人販売が行われています。85歳のおばあちゃんが朝8時に老人カーに大根を3本乗せて、えっこらえっこら持ってきて並べております。また、しゅんのネギ、春菊を、いろいろなものを持ってこられております。最初、こんなところでしてよかとやろうかにゃというふうな考えを持ったわけですけど、やってみると、いろいろな会話ができます。どがんすんないば虫の来んとねて。そいないば、いっちょずつ掘るしかあもんやとって取ってみたり、いや、もみ殻を敷けばナメクジが痛しや来んとよとか、そんな話が、現実的ではないようなお話をしながら、農産物がつくられています。

最初にできるときは、今まで武雄市場があったのがやまったて。楽しみでつくりよった野菜づくりがされんごとなつたばいて。こいばどがんないとんせんないば、もううちの千菜野菜は大半が腐れてしまうものうという声を館長が聞いたのがきっかけです。それが今、地域のいろいろな農業の高齢者の元気につながっております。医療で元気になることも大事でしょう。しかし、朝まず大根を引いて洗って直売場まで持っていかんないば、病院も行かれんものうと言いよんさうち病院行きは忘れてしまいよらす。これが健康の源だと思います。こういうふうな朝日の取り組みについて、社会教育に関連するかと思っておりますけど、教育長はどういうふうにとられていますか。よろしく申し上げます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長



**○浦郷教育長〔登壇〕**

大変すばらしいことだと思って、公民館ブログを見せていただいております。子育ても、まず千菜畑から始まるかなと思うんですが、やっぱり最後、千菜畑ということの大事さというのも改めて感じたところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

9番山口良広議員

**○9番（山口良広君）〔登壇〕**

私は地域で前のように大きく、日本のいろんなところに農産物を販売するのも農業振興、また、ちっちゃなところで地域内流通を考えて販売するのも農業振興だと思います。そんな中から、いろんな新しい農産物ができ、触れ合いができ、冒頭言いましたように農業を、食の安全を知る食育につながるんじゃないかなと思っています。ぜひそういうふうな形で販売、農業振興ができることを期待しております。

次に、食育政策についてです。食育イコール農業、先ほど言いましたように、外国から買えば安く販売すればお客はつく、それも商売かもわかりません。しかし、武雄でできたものを、地元でできたものを少々高くても使ってもらいたい、そして安心・安全なものがここにあるんだよということが食育ではないかと思っています。

そんなときに、来年6月には佐賀県食育大会というものが佐賀のほうで開催されます。その内容と、武雄市としての取り組みについて、どんなものがあるかお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

藤崎こども部長

**○藤崎こども部長〔登壇〕**

お答えします。（図を示す）

来年の6月12日から13日までの2日間、佐賀県で食育推進全国大会が開催されます。内容でございますけれども、ステージイベントとか講演会、パネルディスカッション、展示コーナーとして、食の文化など6テーマが設定されております。また、九州物産展、市町村コーナーなどが設置されます。

全国大会での武雄市の取り組みといたしましては、体験コーナー、武雄焼の絵つけ体験や、おいしいレモングラスの入れ方講座などを予定しております。九州物産展ではレモングラス、イノシシの肉を販売するようにいたしております。また、全国大会に先立ちまして、武雄市ではイベントとして武雄の食育祭りを22年の2月13日に開催する予定にいたしておるところでございます。

以上でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

武雄市での食育大会とは別に、ことしの食育への取り組みをお尋ねしたいと思いますけど、  
どういうふうになっていますか。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

武雄市の食育の取り組みでございますけれども、平成20年の3月に武雄市食育推進計画をつくっております。この中心となる五感を使った食の体験を進めているところでございます。これにつきましては、ライフステージに合った食育講話や調理実習を行い、食の正しい知識の普及に努めております。就学前の子どもを対象にキッズキッチンを実施、就学前のお母さんを対象に子育て応援クッキング等も開催しております。出前講座として、栄養士が学校へ出向き、食育講座を実施しております。また、若者を対象とした食育講座をことしは——これは出会いキッチンでございますけれども、6月27日に開催したところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今、武雄市政の食育の取り組みをお聞きしました。その中で、ぜひ子どもたちを対象にしたいろんな体験、交流というものが大事じゃないかと思います。

そんな中で、今、農林水産省、文部科学省、総務省が連携して行っている子ども農山漁村交流プロジェクトというものがあるわけです。これは全国の小学5年生を対象に、約1週間、農家や林業家、漁業のおうちに民泊し、農林漁業のいろんな体験をしながら、第1次産業でのかかわりを知ってもらいながら、自宅では味わえない体験をすることにより、自然との触れ合い、食育というものがプロジェクトとして行われています。

これに対してどんなものか具体的にあればお聞きしたいし、また、ぜひ武雄市内の子どもたちにも体験させてもいいんじゃないかなと思うわけですけど、教育長、どう思われるかお尋ねしたいと思います

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

御存じのとおり、各学校でさまざまな農業体験が行われております。田んぼの学校であったり、それでもちをつくって、6年生の卒業を祝うとか、あるいは地元の方が通りすがりに学校園に寄っていただいて、野菜の成長を見てもらったりとか、あるいはかかしづくりも図工とつなげてやるとか、米のことで研究発表までつなげるとか、あるいは感謝する催しとか、箱苗づくりから泥んこ体験とか、野菜、花、いろんな取り組みを学校でいたしております

す。また先ほどありましたように、食育課でも体験的な活動を取り入れてありますし、公民館の事業、あるいは放課後子ども教室等々で子どもたち、さまざまな体験活動を行っている。これは非常にありがたく思っておりますし、できる武雄市のよさというのを感じるわけでございます。

その体験を通して、つまり何を学ぶかということになろうかというふうに思うわけです。先ほど言いましたように、学習そのものと結んで、家庭科でも、それから給食とも図工ともというような形で総合的に研究されたのが、この前御紹介しました橘小学校の給食を中心とした研究だったわけですが、食はそういう広がりができるというすばらしさがあると思います。

それから、千歯こきで脱穀したという古民家もありましたけれども、人間の先人の知恵とか、それから逆に科学技術のすばらしさとか、あるいは危うさとか、あるいは上級生、下級生の交流、それから担任以外の先生、地域の方々との交流面のすばらしさ、何よりも感謝の心が育つというようなところで、体験活動が非常に大事だと。しかも、これは学校教育法であれ、学習指導要領であれ、自然体験をふんだんに取り入れて下さいということでありまして、ますます考えていかなければいけないことだというふうに思っております。

ただ、ただいまの御質問にありました農山漁村におけるふるさと生活体験というのは、事業仕分けでは国で行う必要はないという判断がなされております。これはこれでできない——例えば1週間でしたがいいかという、やっぱり農業体験は場合によっては長い目で見たほうが意味があるという面も確かにあつたりするわけでありまして、それから、宿泊ということが同学年がいいのか、異学年のほうがいいのか、さまざまな課題を考えましたときに、体験的な活動は大事、そして、それを何もかんもは取り入れられませんので、それをコーディネートして調整していく、そういうことは非常に大事なというふうに考えております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

#### ○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、橘の先生のことじゃありませんけど、いろんなところで体験学習というものがプログラムされております。ぜひ子どもたちに土のぬくもりを知って、生命の不思議さというものを学んでもらえばありがたいと思っています。

そんな中で、現在、武雄市では中学2年生を対象にした職場体験があるわけです。私のところにも、スイートピーの花、またレモングラスと、いろんなものがありますので、毎年10名ほどの方を引き受けよるわけですけど、その間の子どもの顔を見ますと生き生きしております。そして、うちにおられるおばさんたちとおしゃべりをしながらいろんなことをして、たまにはふざけて、合い中のお茶受けのおまんじゅう、漬物をほおぼりながら楽しんで

やっております。

ぜひ、そんな職場体験の中に農業体験というものが、中学2年生の中にどれぐらいおられるのか、お聞きしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

キャリアスタートウィークということで職業体験学習、これはいろんな企業、事業所と約230カ所ほどでしていただいております、この場をかりまして厚くお礼を申し上げたいと思います。その中で、農業体験学習ということで19年度が10名、20年度が20名、今年度が14名の子どもたちが体験学習をさせていただいております。そのほかにも受け入れていいですよという声をいただいております、非常にありがたく思っているところでございます。主体的に進路を選択する力とか態度とか、そういうことを特に育てていきたいと思っておりますし、特に農業体験では今お話にありましたように、命をいただくこと、それから地域に感謝する気持ち、地域を愛する気持ち、このあたりが生徒の体験後の作文等にも見えるわけでありまして、非常にありがたく思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

9番山口良広議員

**○9番（山口良広君）〔登壇〕**

ぜひ、よろしくお願ひします。

次に、体験農業ということで、くしくも市長は京野菜の話をされました。私も11月に滋賀県の近江日野というところに京野菜の体験農業があるよということを聞きましたので行きました。これがそのときの資料です。（資料を示す）行ってみると、ちょっと僕の口から言って悪いですけど、がんことやというふうな大根葉を畑から引いてきて、それを水洗いをして、包丁でことことことことと切って、それを塩をまぜて調味料を入れて浅漬けをつくるというふうな体験です。僕のような農業者から見れば、がんことかなと思ったんですけど、都会の京都や大阪や滋賀県ですので、名古屋からもちょうどいい距離ですので、結構お客が来るんですよ。この畑に入って大根を引いてするのが楽しかいですねと言われるわけです。こんな体験というものを、私もぜひ、これならば高菜の種まいて、それがちょっと伸びたときに収穫させて、そういうふうな形をする。2時間か3時間の作業かもわかりません。しかし、都会の人には珍しく新鮮に見えるのが体験農業です。

ぜひ、そういうふうな形ですので、武雄市でも考えられればいろんな体験というものができるんじゃないかと思うわけですけど、ぜひこれも今から滞在型の観光客の誘致として考えられないかとお聞きしたいです。よろしくお願ひします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私も全く同感であります。ぜひ山口良広議員を先頭に、そういった体験の観光プログラムをしていただければ、それをモデルケースにしていいただければ、我々としても非常にうれしく思います。

例えば、この体験ツアーは山内町が一步も二歩も三歩も進んでおります。この前、TVQの「きりり九州」にも出ておりましたけれども、山内町の長井さんのお父さんが一念発起をして、自分で山を開いて石焼のピザ、あるいは焼き芋とかをされていると。そこで教育にも取り組んでおられると。非常に私自身感銘を受けました。これ以外にも、みそづくり、焼き物体験などのやまうちまるごと体験ツアーであるとか、それ以外には観光協会と関連事業ではレモングラスの収穫体験やぼっくりづくりの体験であるとか、さまざま行われております。武雄市はさまざまな文化の、あるいは伝統、歴史の財産がありますので、これを観光に体験ということを入れて、特に子どもたちに、ぜひ外から味わってほしいなというふうに思っております。

重ねて申し上げますけれども、やっぱり山口良広議員はぴったりと思います。体験するときにも、にこにこしていただいて、ぜひそういった意味でのモデルケースになっていただくことを祈念申し上げます、答弁にかえさせていただきます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

こういうふうな体験というものは私だけではしれた力しかありませんので、農協や普及センター等と連携しながら、農家の体験ということの中で引き受けた団体、また個人は、それだけの身入りが入れば農家所得にもつながると思いますので、ぜひそういうふうなことを検討されて、その中心になって頑張っていくこともできるんじゃないかと思っています。

もう1つ、滋賀県の近江日野や長浜市を視察体験したのですが、そこでは交通、宿泊、先ほどの体験、研修、お土産までをセットメニューとされた、旅行会社と提携されていたセットメニューがありました。そんなのを考えますと、今、武雄市では議会研修などいろんな視察が見られます。それをうまく取り込み、セットになり、旅行会社と組めば、市内への宿泊客もふえ、観光資源にもなるんじゃないかと思うわけです。この点も観光振興として考えられないか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

### ○前田営業部長〔登壇〕

今現在、武雄市については非常に知名度が上がりまして、議会が済めば北海道から九州、いろんなところから視察——特にイノシシ、あるいはレモングラス関係で課長は自分の仕事ができないような感じで今対応しております。そういうことで、今現在とはとにかく視察に来られる方はとにかくレモングラスとか、あるいはイノシシを買ってもらえるようお願いをしていますが、先ほどは有料の関係でございますが、これについてはできれば受け皿を組織化して、そして、そのシステムをつくってほしいんじゃないかということで、例えば、観光協会を中心にした組織とか、そういうのをよそでやっておりますので、そこら辺を参考にしながら、今後検討はする必要があるというふうに考えます。

### ○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

### ○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、そういうふうな観光協会などの団体と手を組んだ形になれば、もっと武雄がPRできるんじゃないかと思います。

次に、情報の集中管理と発信についてです。

これは今、元気な武雄ということで、武雄は全国から注目を受けています。取材や報道がなされ、テレビやラジオでも放送されています。それと同時に、市内ではいろんな行事が開催されています。武雄市の物産市が全国のデパートやイベント会場で開催されています。武雄でもスポーツ大会が開催されたり、文化、陶芸などのイベントが全国大会や九州大会として開催されています。それらの情報を私たち市民は一部知ることもありますけど、私は市長物語などのブログで、ああ、こんなものがあっていたんだなというふうな過去形の中で知るわけです。それをぜひ一元化した管理をされて、事前に知ることができれば、我々市民も時間があるときにはそこに参加したり、また全国の知り合いに、地域であっている行事には、こがんと武雄んとありよるけんが見や行かんねというふうな、いろんな情報発信もできるんじゃないかと思います。

その点も含めて、これらのイベント、スポーツ大会、物産市等の情報の集中管理はできないかお尋ねします。

### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

この話は以前、上田議員の御質問でお答えいたしましたと思うんですけど、その必要性は感じています。丸ごとカレンダーにしてホームページに載せるということは、今の技術がかなりそれに追いついてきましたので、できるかなというふうに思っておりますので、ホームページにそういった丸ごとカレンダーというのを載せたいと思います。

その上で、この前の物産まつりでいろんな話を聞いたんですけど、福岡の方が非常に多かったんですね。あるいは佐賀市の方が多かった。何で知ったとですかと聞いたら、いや、西日本新聞の九州面に載っていましたと。あるいはNHKの九州版か、あそこで朝出ていましたということで、やはりメディアの力ですよね。FBSとかさまざまところで私も生でも出ましたので、それをもとにしてたくさんの方がお見えになったということもありますので、メディアの対策はきっちりやっていく必要があるだろうと思っています。これはただで載せていただけますので、それももう首長力だと思います。そういう意味でトップセールスを重ねながら、メディアにいかにか露出をするか、いかにか載せていただくかということ——市政もいろいろ重要事項ありますけれども、実は今まである意味、それはちょっと軽視をしまして、それを踏まえてまいりたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

9番山口良広議員

**○9番（山口良広君）〔登壇〕**

そういう意味で、今、元気な武雄というものがいろんなところで発信されています。これをもっと直前に時間があるときに、それらの情報が理解できれば、たくさんの方がこの前の物産まつりのように観えると思います。そういうふうにして、元気な武雄をつくっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、武雄市の人口増加対策について行きます。

今、世の中、男女の出会いがありそうでなく、うちの息子に嫁さんを紹介してくれんねとよく聞くわけです。現状はどうなのか。また武雄市として男女の出会いの対策はとられているのかお尋ねしたい。対策がとられているならば、その成果はどうなのかまで含めてお尋ねします。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これは近隣市町と比べても、武雄市は本当にこれをよくやっていると思います。市役所だけじゃなくて、民間の皆さんたちもよくやっただいていると思います。

今ちょっと具体的に申し上げますと、ことしの10月に定住特区で人口問題を考える座談会を開催しました。ことしの6月に、ネーミングはうちの食育課の職員が考えてくれたんですけど、七夕企画「出会い・キッチン」を文化会館で開催をしました。20代から40代までの独身者を対象に参加者を募集し、32名の参加がありました。男女が一緒に料理をつくり、食べて、交流会を行って、アンケート結果でも、全員がよかったと好評でございました。

私が管理者を努めます杵藤広域圏の組合でも、20代から40代の独身男女に出会いの場を提供するドリームキャッチ12を開催しております。私も知人がおりますけど、毎回約2割から

4割のカップルが誕生しているようであります。ということで、さまざまな機会はとらえてやっておりますし、こういった目立つもの以外でも、例えば、こういう願いがあると。私にも男性からも女性からもいっぱい来ておるわけですね。その場をつくる、引き合わせるというのも、私の重要な仕事かなとも思っております。力は足りませんが、重要な仕事だと思っておりますので、あらゆる機会ですういった場をつくっていかねばいけないうふうに思っております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

9番山口良広議員

**○9番（山口良広君）〔登壇〕**

今いろんなところで対策がとられているということをお聞きしたわけです。私も以前、杵藤広域圏で行われていましたドリームキャッチ12ということで、そこに組織があり、かかわっていたわけです。どうしてもいろんなイベントをするわけですけど、年に1回や2回開催しただけでは、どうしても縁というものができそうで、なかなかあと一歩というものができないのがこの御縁です。なかなか難しいところです。ぜひ私はこういうふうな出会いのイベントを主催すると同時に、縁づくりというものはその道に通じたおじさん、おばさんという、俗に言うしゃーびゃーおばちゃん、おんちゃんというものが、どうしても必要なわけです。その方の力とイベントがセットになれば、いい出会いの場ができ、その後のフォローができるんじゃないかと思うわけです。

その点の組織づくりについては、私は必要と思いますけど、その点どう考えられるのか、お尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これは全く同感であります。今、しゃーびゃーおばちゃんておっしゃっていましたが、そのしゃーびゃーおばちゃん、おじちゃんたちが今なかなか肩身が狭いということも聞きます。例えば、10年前、20年前に比べると、もう少し日が当たったとけにゃあということもよく聞きますので、どういう組織化になるかはまだ今よくわかりませんが、これはしっかり考える必要があると思っておりますので、この方針については、早ければ来年の春ぐらいに出していきたいというふうに思います。しっかり意見を聞きながら、私もそういった民の力、特にこれは私では無理です。御高齢で人生経験が豊富で仲人をされている方であるとか、さまざまな御苦勞をされた方とか、引き合わせた方の力をぜひかりていきたいと、このように考えておりますので、このケーブルテレビをごらんになられている方も、ぜひまたお声がけをしていただければありがたいと思います。システムについてはきちんと考えて、世



に問うていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、いろんな民間の企業さんの場所やら、いろんな提供を受けながら、そういうふうな組織をつくって武雄市では新しいカップルができて、子どもたちがたくさんふえたよと、それで広域圏も充実して、子どもたちが安心して育つまち武雄があるよというふうになるように、ここにおられる議員さんというものはその点の達人ばかりおられています。皆さんと一緒にそういうふうな出会いの場をつくっていききたいと思います。

最後になりましたが、市道高橋沖永線の一方通行解除について。

この道路は、規制された40年前とは道路事情が大きく変わり、今は南部のバイパスとJR踏切を渡り県道に通じる抜け道として、道路交通法を無視した車両の通行が多く見かけられます。それを見かねて橋、朝日地区の区長会では現状をかんがみ、一方通行の解除を申請してはどうかとなり、それが申請されていると聞き及んでいます。その点、市としても長崎新幹線事業の中で、肥前山口－武雄の複線化も大事な事業となりそうです。そのときは、踏切の安全進行を考えたら、なるだけ高架事業でできることも大事、ぜひ高架事業ができれば、いろんな踏切の問題が解決します。しかし、そこまで行かなくても、この事業に関連しながら踏切改良等の運動もぜひしていくべきじゃないかと思っておりますけど、その点、市道改良等含めましてお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

御指摘の市道につきましては、昭和62年の現在の国道34号線、当時、武雄バイパスと言っていましたけれども、その開通した折に、地元のほうから要望がございまして、公安委員会のほうで決定をされて現在に至っているというふうに聞いております。

そういうことで、一方通行等の指定とか解除、こういう交通規制に関しましては公安委員会が所管でございます。これを解除するとなりますと、また交通の流れ等も変わりますので、関係する南上滝、それから沖永等で協議をいただいて、市のほうに要望書を上げていただきますと、それを我々のほうでまた公安委員会のほうへ要望書として提出をして協議を進めていきたいというふうに思いますので、そのような手続でよろしくお願ひしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

御指摘の高橋沖永線については、J Rの踏切があそこにございます。J R協議がございまして、とてもJ Rの踏切幅というのは困難でございますので、今のところ計画はございせん。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今すぐは無理かもわかりませんが、長崎新幹線の複線、肥前山口ー武雄間の複線化事業との関連の中で、ぜひバイパスと県道とのスムーズな通行により地域交流が増しますように、あの一帯が発展することを期待したいと思います。

これもちまして、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。